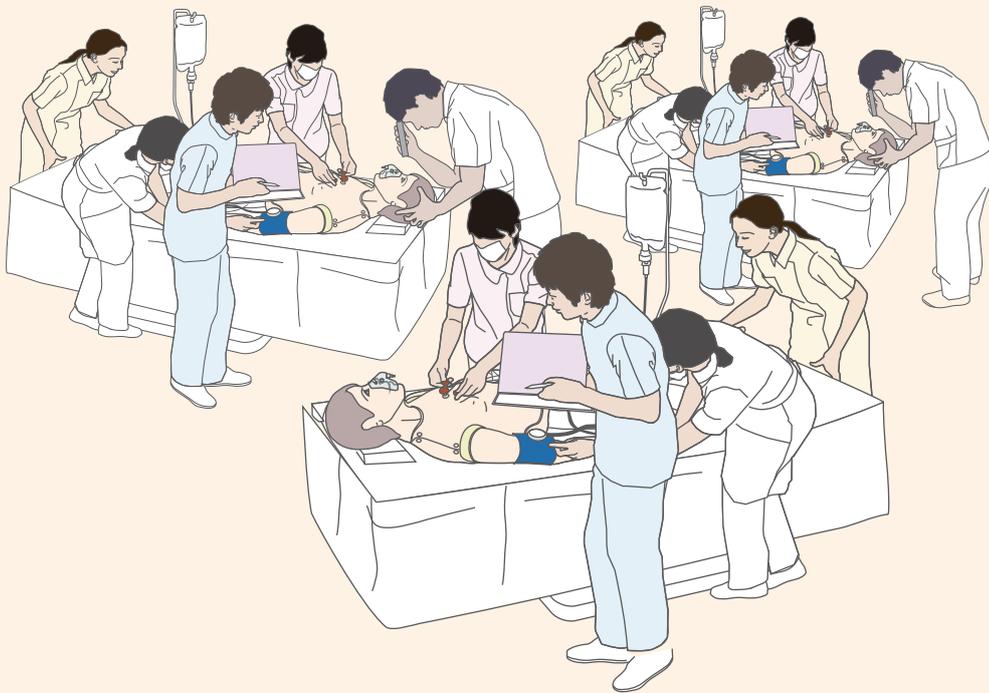


教える人のためのフィジコ活用のヒント

とことん使う！とことん学ぶ！ フィジコ活用法

保存版



京都科学看護専門学校 まごころみみこ 真心看々子先生の場合

フィジカルアセスメント能力 向上のために！！

余すことなくお見せします、活用のヒント。



とことん使う！とことん学ぶ！ フィジコ活用法

目次 Table of Contents



ヒント1

授業時間内で生徒全員の演習を行う……………2

- 看々子先生の授業デザイン
- 授業の流れ

ヒント2

患者を想定したシナリオをつくる……………3-4

- 訴えの異なる患者のアセスメント
- 術後患者のアセスメント

※シナリオの設定方法は、5ページにあります

ヒント3

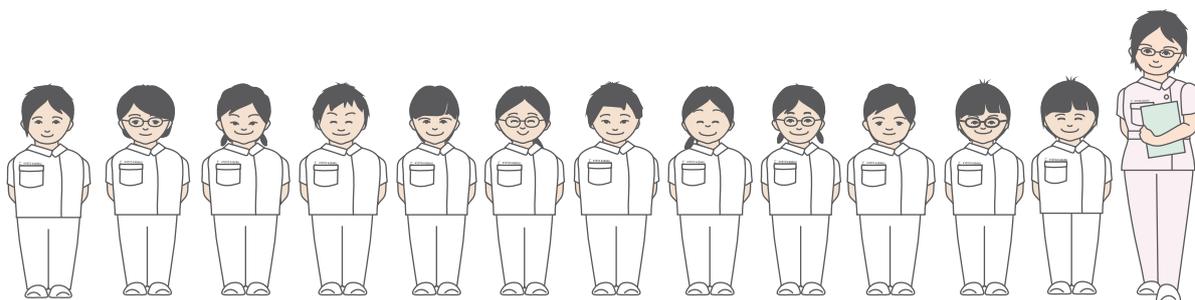
臨場感を出し生徒の集中力を高める……………5

- 臨場感を出す工夫
- 患者シナリオ設定方法

まとめ

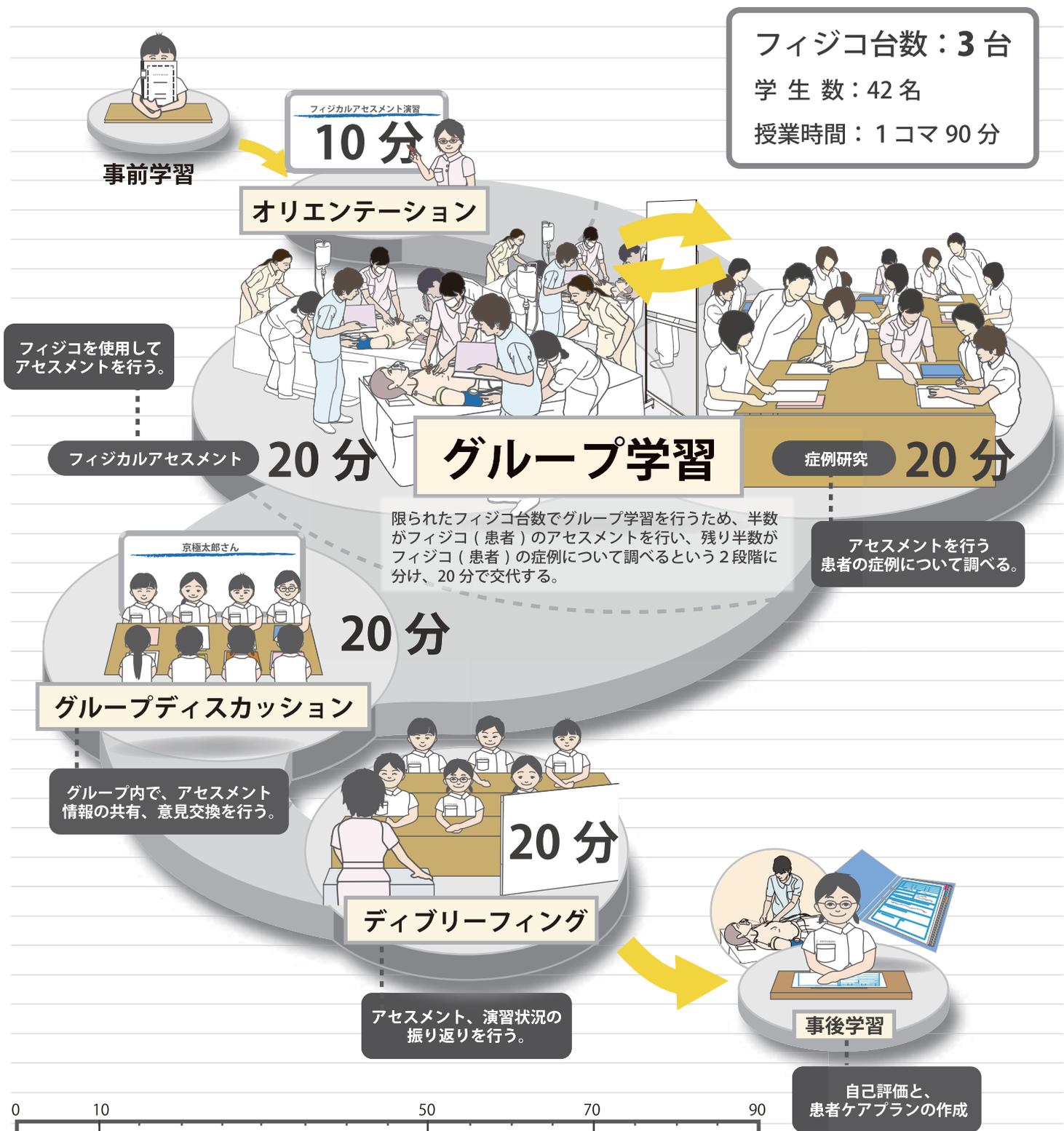
フィジコ活用のまとめ……………6

- フィジコ活用の鉄則
- 授業から実践へ



看々子先生の授業プランをご紹介します！

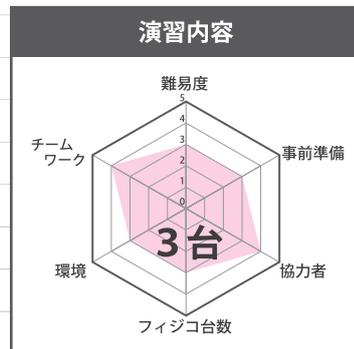
限られた時間で看護実践能力の育成を行うための看々子先生オリジナル授業プラン。
体を動かすフィジカルアセスメント「技術」だけでなく、頭で考えさせる「知識」との統合を図ることも可能なプランです。



0	10	50	70	90
オリエンテーション	グループ演習		グループディスカッション	デブリーフィング
10分間	20分間	20分間	20分間	20分間

12人の患者モードを使用

訴えの異なる患者のアセスメント



ねらい

タスクトレーニングで習得した技術や教科書から得た知識は、実際どのような場面で、どのような根拠をもって用いるのかがわからなければ、適切な看護を行うのは難しい。そこで、診断名 / 既往歴 / 訴えから、患者の情報を的確に得るには、どのような点に注目して観察を行えばよいかを考え、フィジカルアセスメントを行うためのシナリオにした。

目標

患者の情報を的確に得るにはどのような点に注目して観察を行えばよいかを考え、フィジカルアセスメントを行う。

シナリオ

あらかじめ登録されている12人の患者選択モードから、3名を選択する。今回はそれぞれ訴えの異なる患者を以下3名選択した。

名前	診断名	設定内容	注目させる所見
河原直美	イレウス	<ul style="list-style-type: none"> 患者の訴え：「お腹が痛い」 虫垂炎の疑いで開腹手術を受けたが、虫垂は正常であった。 術後、食事が全く欲しくなかった。 血圧：114/70 mmHg 体温：36.3 腸蠕動音：なし 心音：正常 呼吸音：正常 	腸音
京極慎之介	慢性閉塞性肺疾患	<ul style="list-style-type: none"> 患者の訴え：「息が苦しい」 既往歴：在宅酸素療法中 40年来のヘビースモーカーで現在は在宅酸素療法を行っている。 血圧：140/80 mmHg 体温：36.7 腸蠕動音：正常 心音：洞頻脈 呼吸音：高調性連続性副雑音（笛様音） 	呼吸音
京都太郎	心筋梗塞	<ul style="list-style-type: none"> 患者の訴え：「胸が痛い」 寒い冬の朝、通勤途中で突然胸に手を当てて苦しうに倒れた。 血圧：150/100 mmHg 体温：36.5 腸蠕動音：正常 心音：正常 呼吸音：やや速い 心電図：心筋梗塞 	心電図

★フィジコでは、所見解説 / 症例解説も見ることができます！

自学学習

事前学習：タスクトレーニング、教科書でフィジカルアセスメントをおさらい。

事後学習：演習結果をもとに、以下について調べ、考え、まとめる。

アセスメントを行った患者に対する 食事・活動・清潔などといった視点から日常生活の援助方法

演習方法

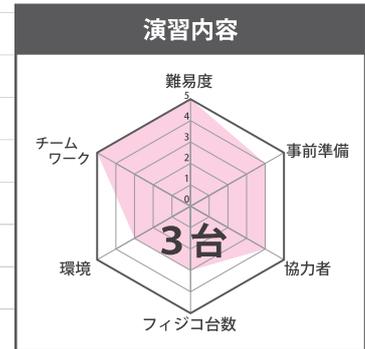
2ページ目の「看々子先生の授業組み立てメモ」を参照。

※体温 / 脈拍数 / SpO₂ / 意識レベルはシナリオ上の設定です。

フィジコ × シナリオ × 臨場感

任意の患者モードを使用

術後患者のアセスメント



ねらい

一人の患者の術後の変化や申し送りの内容を統合して患者の状態を考え、フィジカルアセスメントを行うシナリオとした。その後のディスカッションでは、術後の経過が異なるメンバーと情報共有を行う必要性からも、一人ひとりが正確なアセスメントを求められるという緊張感も出る。

目標

術後の変化に気づき、申し送りで受けた内容など複合的要素を踏まえフィジカルアセスメントを行う。

シナリオ

60歳男性 祇園舞男さんが、退職記念に訪れた人間ドッグにて指摘を受け精査。食道がんと指摘される。→1日目食道がん術後、18日目嚥下食開始後から20日目誤嚥性肺炎へ。

■既往歴：毎日2合飲酒。喫煙歴20年 20本/日

術後日数	内容 / 設定
オペ1日目 身体アセスメント	<ul style="list-style-type: none">術前化学療法を経て手術となる。胸部を開いて食道を切除すると同時に、頸部、胸部、腹部のリンパ節を郭清。胃の一部を切り、管状(胃管)にしてから、つり上げ、失われた食道として再建。血圧：やや低め 体温：37度後半 脈拍：正常値範囲内 SpO2：酸素4ℓ下で95%以上維持 腸蠕動音：なし 心音：正常 呼吸音：正常 意識レベル：傾眠状態
18日目午前 嚥下食開始	<ul style="list-style-type: none">午前11時に先輩Nsより「そろそろ嚥下食を考えているのだけれどどうだろうか。」と、言われた。肺音クリア。レントゲン所見問題なし。血圧：正常値範囲内 体温：37度前半 脈拍：正常値範囲内 SpO2：酸素投与なしで95%以上維持。 腸蠕動音：正常 心音：正常 呼吸音：正常 意識レベル：意識明瞭
20日目 誤嚥性肺炎発症	<ul style="list-style-type: none">初回 嚥下食摂取時にむせがみられたので、経過観察するよう申し送りを受けた。 訪室時、発熱がみられた。血圧：正常値範囲内 体温：38度前後 脈拍：100回/分 SpO2：酸素投与なしで90%前半。 腸蠕動音：正常 心音：正常 呼吸音：粗い断続性副雑音 意識レベル：明瞭だが、ぐったりしている。

自学学習

事前学習：術後患者のケアを深めるために、術後管理や合併症の予測とその対処法・観察法を調べる。

事後学習：急変時である20日目に関して、今後の予測を立ててケアプランを策定する。

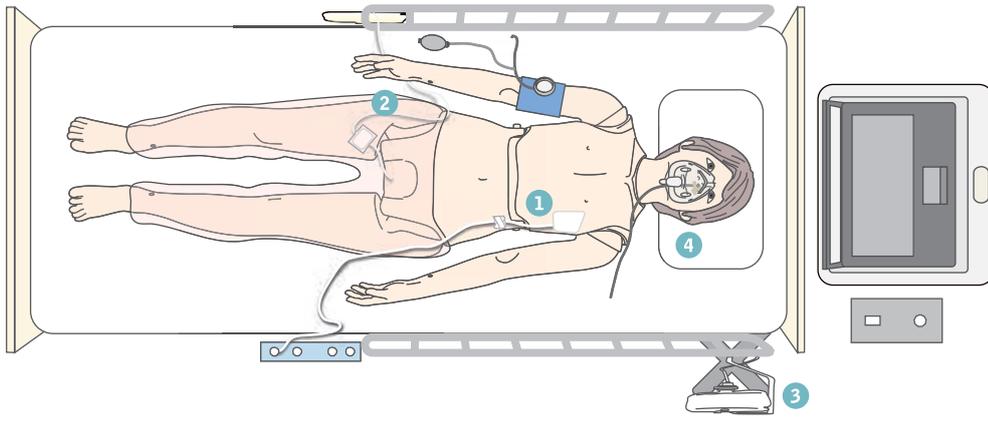
演習方法

2ページ目の「看々子先生の授業組み立てメモ」を参照。ディスカッションでは、術後経過日数の異なるメンバーを混合し情報共有を行う。

*体温 / 脈拍数 / SpO₂ / 意識レベルはシナリオ上の設定です。

次ページへつづく

術後の臨場感を出すには？

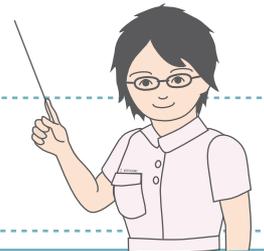


- ① ドレインチューブ
- ② 尿道カテーテル
- ③ 静脈点滴の留置
- ④ 酸素マスク
- ⑤ パーテーション

Point

ドレインチューブや、点滴、尿道カテーテルの模擬的設置によって臨場感が生まれ、設置状態の患者アセスメントの訓練にもなります。

※注意：フィジコへのチューブの模擬的設置は出来ませんが、実際にチューブを挿入することはできません。



01 患者シナリオ設定

患者のバイタルサインほか、既往歴や診断名、必要物品など一枚の紙にまとめる。
【ポイント】 アセスメントの目標、学習ポイントを明確にしておく。



任意の患者シナリオ設定方法

患者設定シート例

フィジコ専用 患者設定シート 2 イレウス患者の術後のアセスメント 2日目 (初回非行アセスメント)		京都夏子 2011年 9月 25日 KYOTO KAGAKU
患者の基本情報 氏名: 京都夏子 年齢: 27歳 身長: 155 cm 体重: 47 kg BMI: 26.8 国籍: 専業主婦 70		意識レベル: 意識明瞭 瞳孔反射: 正常 血圧値: 51/105 / 34 / 55/60 通常血圧: / 術後1日目より少し高くなった。
診断名 イレウス 2年前に 数年前に		バイタルサインの設定 術後1日目と変わらず。
既往歴 患者の基本情報は、術後1日目同様。 2年前に急性小腸炎を発症し、手術を受けた。術後1日目のバイタルサインは正常であった。 数年前に慢性便秘を患った。		心音: 異常なし 心電図: 異常なし 呼吸音: 正常 腸音: 正常 術後1日目と変わらず。 術後1日目は消失していたが、正常になった。
患者の状態、背景 術後1日目より、量を増やす。		必要物品 ・聴診器 ・酸素マスク ・尿管 ・静脈点滴器具 ・酸素マスク ・ドレナージチューブ
学習のポイント ・術後1日目のバイタルサインの変化に気づく。 ・術後の不安な心境の患者さんに対し、2日目ながら非行を行う意味をわかりやすく患者さんに伝える。		メモ ・高血圧は、患者様に向けた指導を...
演習ポイント ・術後のバイタルサインの変化に注目させる。 ・患者の既往歴、診断を正確にしながらアセスメントを行わせる。		

02 任意の患者モードの選択

フィジコの3つのモードから、「患者モード」を選択する。



03 患者情報の登録

設定したシナリオに従って、患者の名前からバイタルサインまで登録を行う。患者は何人でも登録することが出来ます。



※登録方法に関しては、取扱説明書をご覧ください。

★ この設定シートはウェブサイトよりダウンロードできます！
「京都科学」で検索！

<http://www.kyotokagaku.com>

フィジコ活用の鉄則

フィジコを活用する際に以下を行うことで、学習者の理解が深まります。

✓ **学習者のレベルに合わせた患者シナリオをつくる。**

準備短縮テク → 既に登録されている「12人の患者モード」から選択。

✓ **学習者に事前・事後学習を行わせる。**

✓ **演習後にはディブリーフィング(振り返り)を行う。**

ディブリーフィングによって、お互いの演習を振り返ることで、改善点を見出し、気づき、アセスメントのポイントを押さえることで、学習者の理解を深めることにつながります。

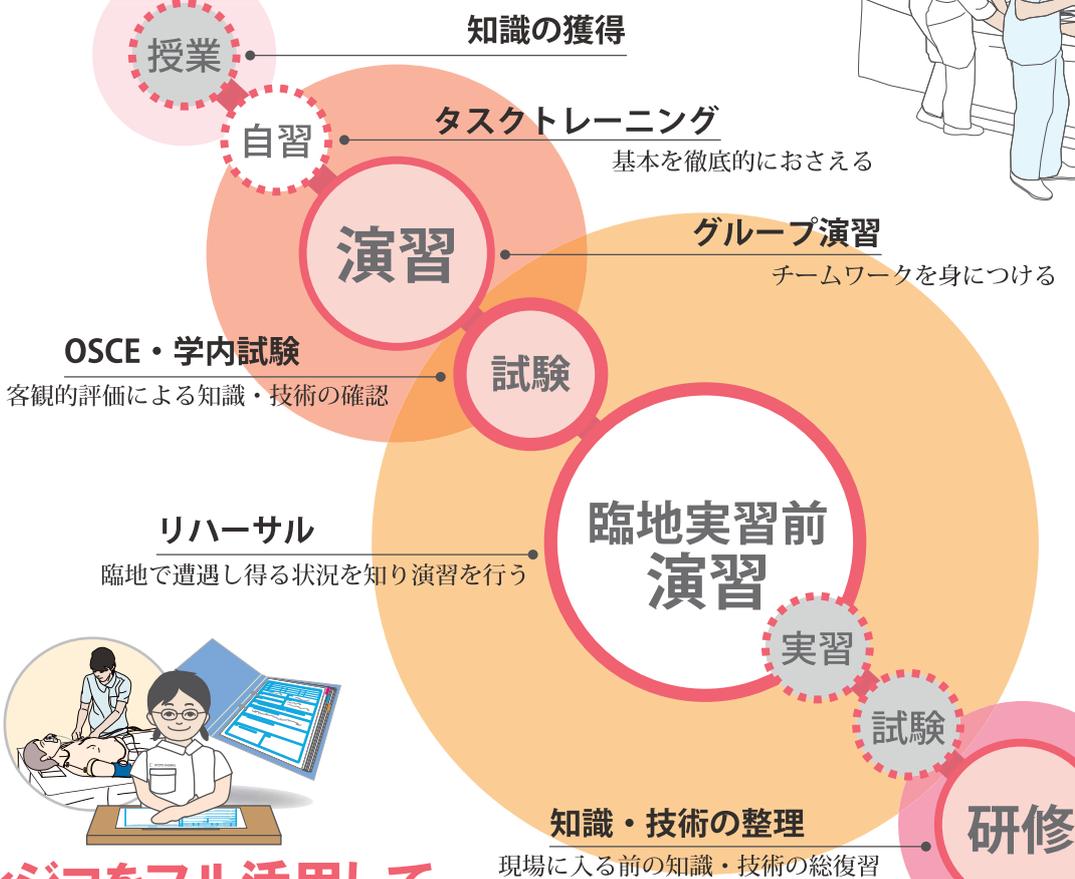


Point

- 学習者には、デモンストレーションを行い、きちんとフィジコの使い方を伝授しておく、その後のタスクトレーニングなどが行いやすい。



看護実践能力育成のために…
授業から実践へ



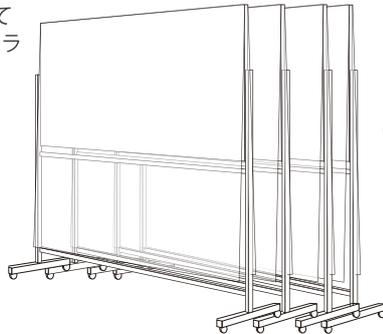
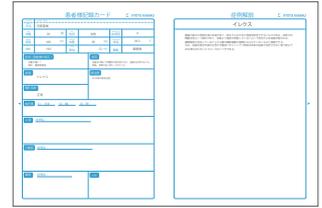
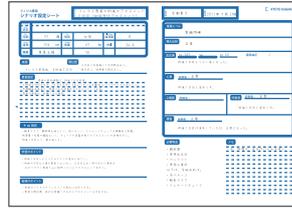
**フィジコをフル活用して
看護実践能力の育成と、
知識・技術の統合を図りましょう！**

看護実践

複数台のご使用で、濃密な演習が実現可能に！

必要物品リスト 4台ご使用の場合

- 指導者(先生)
シナリオ(「12人の患者モード」の場合は不要)
患者の症例補足プリント ※実習後の解説用
- 学習者(生徒)
 - ・聴診器
 - ・秒針付腕時計
 - ・筆記用具
 - ・記録用ノート
 - ・教科書
 - ・参考書
 - ・実習に必要な物
- 診察に必要な物品※フィジコ4台分
 - ・心電計電極 付属品
 - ・心電計(フィジコ専用)
 - ・血圧計(フィジコ専用) 付属品
 - ・ペンライト(瞳孔確認用) 付属品
 - ・問診用ワイヤレスマイク 付属品
- その他 ※必要に応じて
 - ・演習記録用ビデオカメラ
 - ・スクリーン



今回ご紹介した、フィジコとは…



M55 11354-000

新・看護師教育プログラムに対応

Physical Assessment Training Model "Physiko"

フィジカルアセスメントトレーニングモデル フィジコ

患者シミュレーション監修：山内豊明 名古屋大学 医学部教授

フィジカルアセスメント技術の向上に役立つ、唯一の専用シミュレータです

問診 / 瞳孔反射 / 血圧測定 / 心音聴診 / 脈診

呼吸音聴診 / 腸音聴診 / 心電図の学習

詳細はウェブサイトへ <http://www.kyotokagaku.com>

● 製品は絶えず改良を続けておりますので、仕様・外観など予告なく変更になる場合がございます。予めご了承ください。



取扱店

製造元

株式会社 **京都科学**

URL <http://www.kyotokagaku.com> e-mail rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp

本社・工場

〒612-8388 京都市伏見区北寝小屋町15
TEL.075-605-2510 (直通) FAX.075-605-2519

東京支店

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目26番6号
NREG本郷三丁目ビル 2階
TEL.03-3817-8071 (直通) FAX.03-3817-8075